

ビジネスリーダーの情報武装マガジン

Jul.2006

7 | 1

7月1日号

先見経済

特別付録
清話会・定例講演会特選CD
経済・金融ジャーナリスト
須田慎一郎氏

Management & Economic Information SENKEN KEIZAI
第1回「先見経済ビジネスフォーラム」特集号

特集1

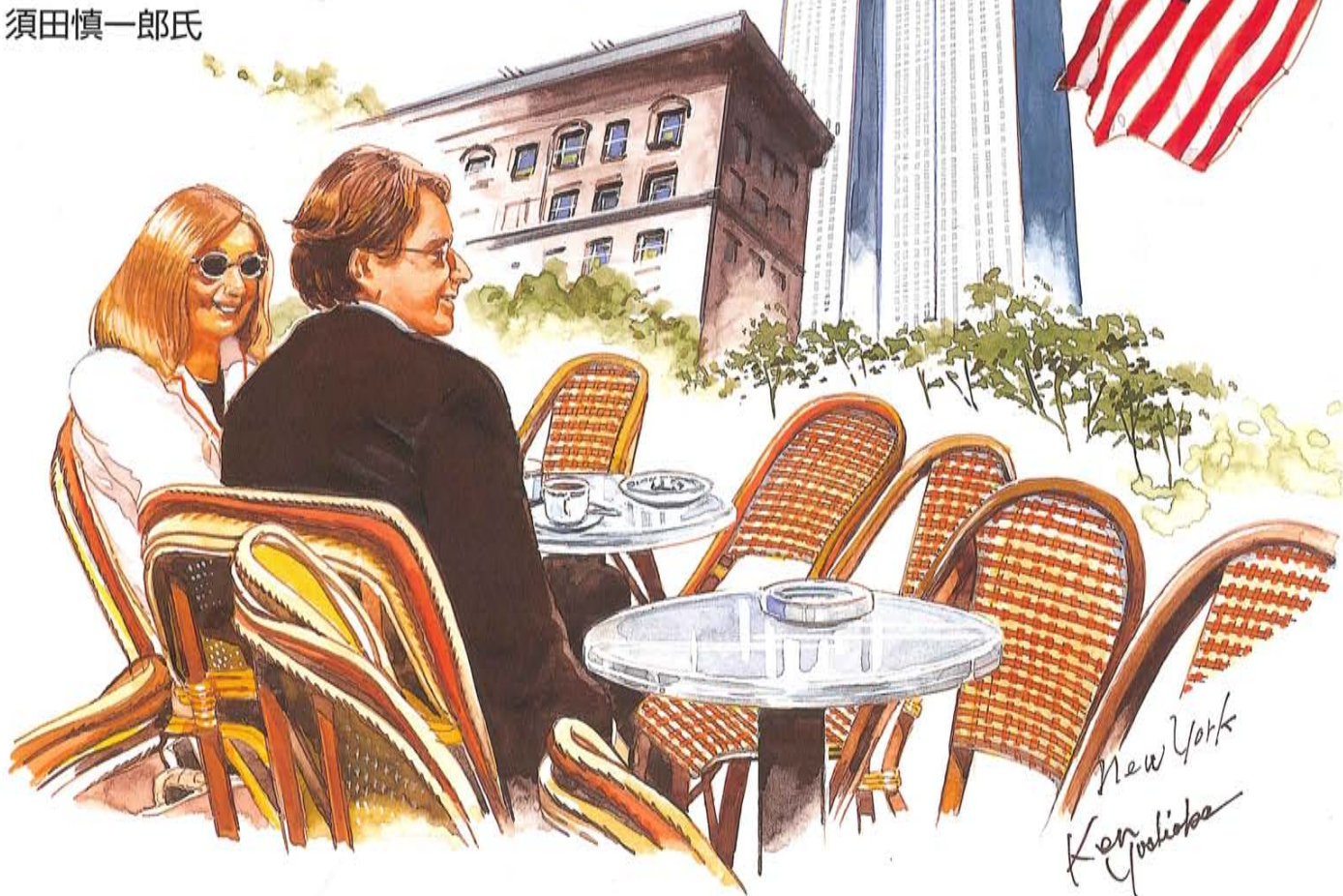
躍進する会社・人に学べ!
第1回先見経済ビジネス大賞
各賞受賞企業レポート

特集2

第1回「先見経済ビジネスフォーラム」講演録

清話会 定例講演会講演録

経済・金融ジャーナリスト
須田慎一郎氏



躍進する会社・人に学べ!

第1回 先見経済 ビジネス大賞

特集1



各賞受賞企業 レポート

さる5月20日(土)東京・日本青年館において開催した第1回「先見経済ビジネスフォーラム」。ここで先見経済ビジネス大賞が発表されたわけだが、今回はその中で3社の受賞企業を取り上げたい。どの企業も高い収益性、優れた技術力、先見性のある事業で経営を行っている。なお、今特集で紹介しきれない2社については、あらためて企業レポートをお届けする予定だ。



〈食育〉の普及をわが社の使命に

先見社会
貢献賞

エンゼルフーズ(株)
代表取締役社長
古賀義将

最初に紹介するのは、「先見社会貢献賞」を受賞したエンゼルフーズである。同社は幼稚園給食の最大手。売上も毎年2桁成長を続けているが、経営の根底にあるのは、日本人の食改善・食育の普及だ。古賀義将社長に食への熱い想いを聞いた。

事業の原点は 〈教育〉にあり

幼稚園給食の最大手として、他者の追随を許さない地位を築き上げたエンゼルフーズ。1日に5万食の給食弁当を提供し、「永遠に未完成の給食づくり」を経営理念に、日々、顧客が満足する給食を追い求め続けている。

同社の創業は1965年。現社長・古賀義将氏の父である茂靖氏が当時、自宅のあった東京・西果

鴨で「古賀ランチセンター」を起こしたことに始まる。最初は自宅でカレーライスをつくり、ライトバンで運んで、巢鴨駅前を持ち帰り用として販売した。テイクアウト店の元祖である。そのうち固定客も付き、「カレー以外にも、日替わりで弁当をつくってほしい」との要望から、茂靖氏は現在の同社の柱の1つである「産業給食」への参入を決断。70年に会社組織として(株)千成瓢箪を設立した。

古賀社長が同社に入社したのは、90年のこと。87年に大学を卒業して3年間、大手外食チェーンに就職し、食の勉強を重ねた上での入社だった。しかし古賀社長は、最初から後を継ごうと考えていたわけではなかったという。

「私は昔から子どもが好きで、学校の先生になりたいという夢がありました。ですから、教員免許も取りましたし、大学3年生のときはこのまま教師になろうと。しかし、本格的に就職活動を始めるときに、父から事業を継いでほしいと説かれて……。自分のやりたかった教育と、父のやってきた産業給食——これを融合できないのか。そこで考え付いたのが、学校給食の分野でした」

エンゼルフーズ株式会社 会社概要

■本社 東京都北区豊島8-1-1 ■設立 1970年 ■資本金 1600万円 ■事業内容 幼稚園弁当給食・学校委託給食・学校弁当給食・事務所弁当給食・折り詰め弁当・出張パーティーなどに関する業務。



「わが社は〈人づくりの工場〉でありたい」と語る古賀義将社長

今でこそ、食育基本法などが制定され、食を通じた教育が知育・徳育・体育に次いで見直されているが、90年以前に〈食育〉について考えた者は、ほとんどいなかった。古賀社長は入社するにあたり、ある決意をした。

「直接、教育にかかわる仕事はできませんでしたが、食を通じて寄与していきたい。そう考えたとき、『三つ子の魂、百まで』ではありませんが、幼いときに培われた正しい食生活や食文化は、大人になっても、幼稚園給食分野にターゲットを絞ろうと決めたのです」

そのころ、同社ではすでに幼稚園給食事業も展開していた。が、

古賀社長の入社時は3000食程度で、主力事業ではなかった。

「入社した90年は、産業給食(当時1500食)、幼稚園給食(同3000食)、学校の委託食堂(同2500食)、出張パーティーや折詰め注文料理という4本の事業の柱がありました。しかし少子化の影響で、学校の委託食堂が、右肩下がり。またバブル崩壊で、出張パーティーの受注が大幅減。新たなターゲットとして幼稚園給食を見たとき、1件当たりの売上は落ちるかもしれませんが、未開拓のこの分野でシェア拡大のチャンスは十分にあると考えたのです」

毎朝4時に起きて、弁当づくりを経験

外食産業で食の基本を学んだものの、弁当給食分野の経験は当時の古賀社長になかった。そこで一通り勉強すべく、毎朝4時には工場へ行き、パートの人たちと共に弁当づくりに励んだ。弁当づくりは、昼食に間に合うようにつくるため、午前10時には終わる。それが終わった後、今度は営業活動に出るとい日々が続いた。営業では、自分の中で温めてきた「子どもの食の問題」を伝えるため、幼

稚園へ飛び込んで回ったという。

その上で、「営業が終わる、会社に戻るのが午後6時ごろ。帰社後は栄養計算などの勉強をしながら、自分でメニュー開発をしました。栄養士免許は持っていませんでしたが、〈理想の幼稚園給食〉をつくるべく試行錯誤を繰り返しました。さらに、調理指示書を作成し、食材の仕入れまでやって、1日の仕事が終わるのは夜中の12時。12時に寝て4時に起きる。こんな生活を2年ほど続けましたね」。

地道な営業の結果、徐々に実績が上がった。まだ営業のいなかった当時、古賀社長が1人で取り組んだ2年間の営業活動で、2億5000万円の売上増を達成。平成不況の最中で驚異的な成長だ。

給食契約が順調に伸びると同時に、94年には本社の隣に幼稚園給食専門の「夢工場」を増設。この名前には、希望ある未来を育てる手伝いをしたいとの想いが込められている。その翌年には、現在の「エンゼルフーズ」へと社名変更も行った。天使のようにかわいい子どもたちに、夢のある食事を届けたいという会社のコンセプトを、そのまま社名にしたのである。その後、02年に父の後を継いで代表



「定時後の社内研修会で、社員のスキルアップを図っている」と話す齊藤英明生産管理部長

仕事の基本を教える社内ビジネススクール

取締役社長に就任した。

会社の発展に伴い、社内整備も進む。新規に人材を採用し、今まで古賀社長がやってきた業務を振り分けた。とはいえ、ただ人を雇えば終わりではない。自らの〈想い〉を皆に伝えなければならない。實務中心から〈子育て〉へと、古賀社長の仕事内容はシフトする。

「先ほども申し上げましたが、教育という仕事に好きでしたので、社員教育はやりがいがありました。まずOJTとして、自らの想いととも、営業マンに同行しながら幼稚園営業の手法を伝えていく。そして帰社後は、営業時のロールプレイングに取り組んだ

り、ビジネス書籍を読ませてレポートを書かせるといった社内研修会を開き、個々の社員のレベルアップを図りました」

この社内セミナーは4年前から「エンゼルビジネススクール」として確立。今では主に営業部門の社員を対象として、幹部クラスが講師役を担っている。

社員教育に熱心な同社だが、社員に戸惑いの声はなかったのか。95年、生産部門の社員として入社した斉藤英明生産管理部長に、社内研修当時の話を聞いた。

「当時はまだ、営業マンが足りない時代。私は生産管理のプロとして入社したため、営業経験がありませんでしたが、『教えてくれたら

自分もやりますよ』と社長に言っただんです。すると、『それなら、やってみようか』と。その一言から、かなり勉強させられました（笑）。でも、何も分からない中、社長に「一から教えてもらい、営業成績も上がって……。一生のうちで一番勉強した時期かもしれせんね（笑）」

では、古賀社長が社員に求めるものは何なのか。

「わが社はお弁当をつくる工場であると同時に、（人づくりの工場）でありたいと思っています。会社を単にお金を稼ぐ場所ではなく、自分を成長させるための（道場）や（学校）と考える人に働いてほしい。その結果として、自分の人生の目標を見つけてもらえれば最高ですね。目標が見つければ、がむしゃらになって取り組めるし、人間として成長できる。結果として人生が豊かになるのです」

給食説明会で啓蒙活動を行う

近年、（キレる）子どもたちが引き起こす凶悪な少年犯罪が増加している。そして、彼らの間違った食生活との因果関係が明らかになりつつもある。対策として、食生

活の改善と食育の推進が急務だ。

同社では、単に幼稚園給食を提供するだけでなく、さまざまな取り組みを通して、園児の家庭での食生活のアドバイスも行っている。家庭における食育の重要性について、古賀社長は次のように話す。

「給食は、1日3食のうちの1回にすぎません。わが社では、当然のことながら保存料・添加物を一切、使用していませんが、家庭でもきちんとした食べ物をつくっていただく必要があるし、外食する際も、親御さんに正しい食の知識を身に付けていただきたいと考えています」

同社の食育への取り組みの1つに、「給食説明会」がある。これは、給食契約をしてくれた幼稚園の保護者に対して、同社がどのようなコンセプトで給食を提供しているかを、定期的に伝える場だ。説明会には同社の栄養士も参加し、食育に関するアドバイスも行っている。1件の幼稚園に対し、年に1〜2回説明会を実施。現在、総契約幼稚園数が300件超なので、年間500回近くも行う計算だ。

また、契約幼稚園を対象に「給食だより」も発行している。これは年6回の発行で、食文化や食品

知識に関する記事を、同社の栄養士と古賀社長自らが制作している。これらの活動を通じ、同社は地道に食生活の改善や食育を推進しているのだ。

シンポジウムを開き、社会貢献をしたい

すべての日本人の食改善を目指すことを使命としたエンゼルフーズ。今後、同社は定期的に食に関するシンポジウムの開催を検討しているという。

「現段階では、東京・神奈川・埼玉などで1000人規模の会場を借りて行いたいと思っています。私がコディネーターとなり、各界の著名な方をお呼びする。現在、服部栄養専門学校の前校長や、『粗食のすすめ』を書いた幕内秀夫さんなどに出演依頼をしています。このシンポジウムは、わが社のお客さまだけでなく、広く一般の方にも無料で来ていただくことを目的としています」

第1回目は、今年11月ごろに埼玉県の大宮での開催を予定している。古賀社長が、入社当初から思い描いていた食育の普及、食を通じた社会貢献が、またひとつ形になるうとしている。



契約幼稚園を対象に、年6回発行している「給食だより」